

第1回大谷・小鹿まちづくり検討会議 ご意見・ご質問と回答

番号	ご意見・ご質問	回答(案)
1	<p>地区の名前がふさわしくないように感じる。 地域の方々が、大谷学区、小鹿（西豊田、東豊田学区）の話とイメージするのではないか。 もっと多くの関心を集めるのであれば、名前の変更なり、ゾーニングの対象を強調すべき。</p>	<p>当会議でいう「大谷・小鹿地区」は、区画整理事業開始前の市街化調整区域、約125haを指しているものですが、ご指摘のとおり住居標示上の地区名とは合致しておりません。 一方で、第3次静岡市総合計画（H27.3）、静岡市都市計画マスタープラン（H28.3）、駿河まなびのまちづくりグランドデザイン（R3.3）などの行政計画や、大谷・小鹿地区まちづくりグランドデザイン（H25.3）等においては、当該地区を「大谷・小鹿地区」として扱ってきている経緯があります。 以上を踏まえ、会議名は「大谷・小鹿地区」とさせていただきますが、会議中では、住居標示上の地区名や具体的な範囲を図示するなど、イメージが沸くような工夫をしていきます。</p>
2	<p>このエリアで文化・カルチャーを形成してきた若手（40歳以下）の関与をさせるべき。</p>	<p>当会議では、地区の将来像、あり方を検討していくことと並行して、将来の担い手となる「人材の発掘を」大きな目標としております。 検討を進める中で、まちづくりの方針に賛同をいただける方々には、会議に積極的にご参加いただけるよう働きかけていきます。</p>
3	<p>寺社仏閣等、名所、宮跡を調査し、有効活用をするべき。 地域のお祭りなど今は途絶えているものも含めて、まちづくり、地域おこしには必要ではないか。 自転車道、ウォーキングコース、久能街道の整備や活用も。</p>	<p>ご提案いただいた事項について、まとめました。（参考資料3 スライド23～25）</p>
4	<p>資料2について、今年度の会議の最終回の議題が「地区議題のまとめ」になっているが、これがR4年度のゴールという理解で良いか。</p>	<p>そのとおりです。 当地区は、現状土地区画整理事業が進行中であり、これから具体的な土地利用が始まる地区であることから、目指すべきまちの姿を考える上で、将来を見据えた地区課題の抽出が重要であると考えており、時間をかけて課題抽出を行っていく計画としております。</p>
5	<p>本日の会議に参加しているが、設置要綱の別表1に記載がないメンバーは、本会議においてどのような立場か？</p>	<p>別表1には、現状で当地区に関わっている自治会や土地区画整理組合を載せております。 第1回会議では、当地区内および周辺に既に立地している企業様、当地区において事業を実施される可能性がある企業様にお声かけさせていただきました。今後、当地区に関わることが具体的に決定した段階で、まちづくりの方向性にご賛同いただけましたら委員として加わっていただく予定です。 また、企業の皆様におかれましては、各々が担う分野が異なるため、主に分野ごとの検討・調整を行うワーキンググループにて、ご知見を伺えればと考えております。</p>
6	<p>資料4の11頁に3つの研究会が記載されているが、本検討会議との違いは何か。メンバーの招集はこれからか。</p>	<p>当地区のエリアプラットフォームとして、①大谷・小鹿地区まちづくり検討会議（当会議）、②大谷・小鹿地区まちづくり組織研究会、③恩田原・片山地区まちづくり研究会、④宮川・水上地区まちづくり研究会の4つの組織体を想定しております。 ①当会議は、当地区のまちづくりの方向性やあるべき姿及び課題解決に向けた具体的な手法について意思決定を行う会議体で、本会議とワーキンググループの2部体制で構成しています。 ②大谷・小鹿地区まちづくり組織研究会は、①会議で意思決定されたまちづくりの方向性に基づき、課題解決に向けた取組みを主体的に担う、もしくは、地元自治会や企業の取組みを調整する役割を担います。将来的には、まちづくり法人として自走することを目指していきます。 ③恩田原・片山地区まちづくり研究会と④宮川・水上地区まちづくり研究会は、各々の地区における課題の解決に向けた具体的な手法の検討を、より具体的に行う組織体です。両地区は、土地利用の方向性や関係者が大きく異なるため、別々に検討を進めることが望ましいと考えております。 上記4つの組織体について、①・②は今年度、③・④は来年度以降の設立を目指しております。また、各組織のメンバーについては現在検討中ではありますが、検討の進捗に応じて流動的にご参加いただくことを想定しております。</p>
7	<p>ロードマップにある「大谷・小鹿地区まちづくり組織研究会」はWGと同じか。</p>	<p>質問6への回答のとおり、ワーキンググループは「大谷・小鹿地区まちづくり検討会議」の一部を担う組織体であり、「大谷・小鹿地区まちづくり組織研究会」とは異なるものとご理解ください。</p>
8	<p>ロードマップにおいて、宮川・水上地区のまちづくり研究会を進めるタイミングを優先した方が良く考える。</p>	<p>事務局としては、恩田原・片山地区において、令和6年度に土地区画整理事業が概ね完了し、令和8年度までに土地区画整理組合が解散する予定であることを踏まえ、その後のまちづくりの方向性を早期に定める必要があることから、恩田原・片山地区まちづくり研究会を優先的に進めたいと考えています。 宮川・水上地区については、今年度4月に土地区画整理組合が設立し、現在、業務代行者によって具体的な土地利用の検討が進められているところであり、そちらとの情報共有を図りながら、早急な検討が必要となる事項については個別に対応してまいります。</p>